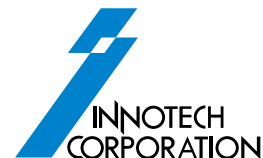


INNOTECH CORPORATION

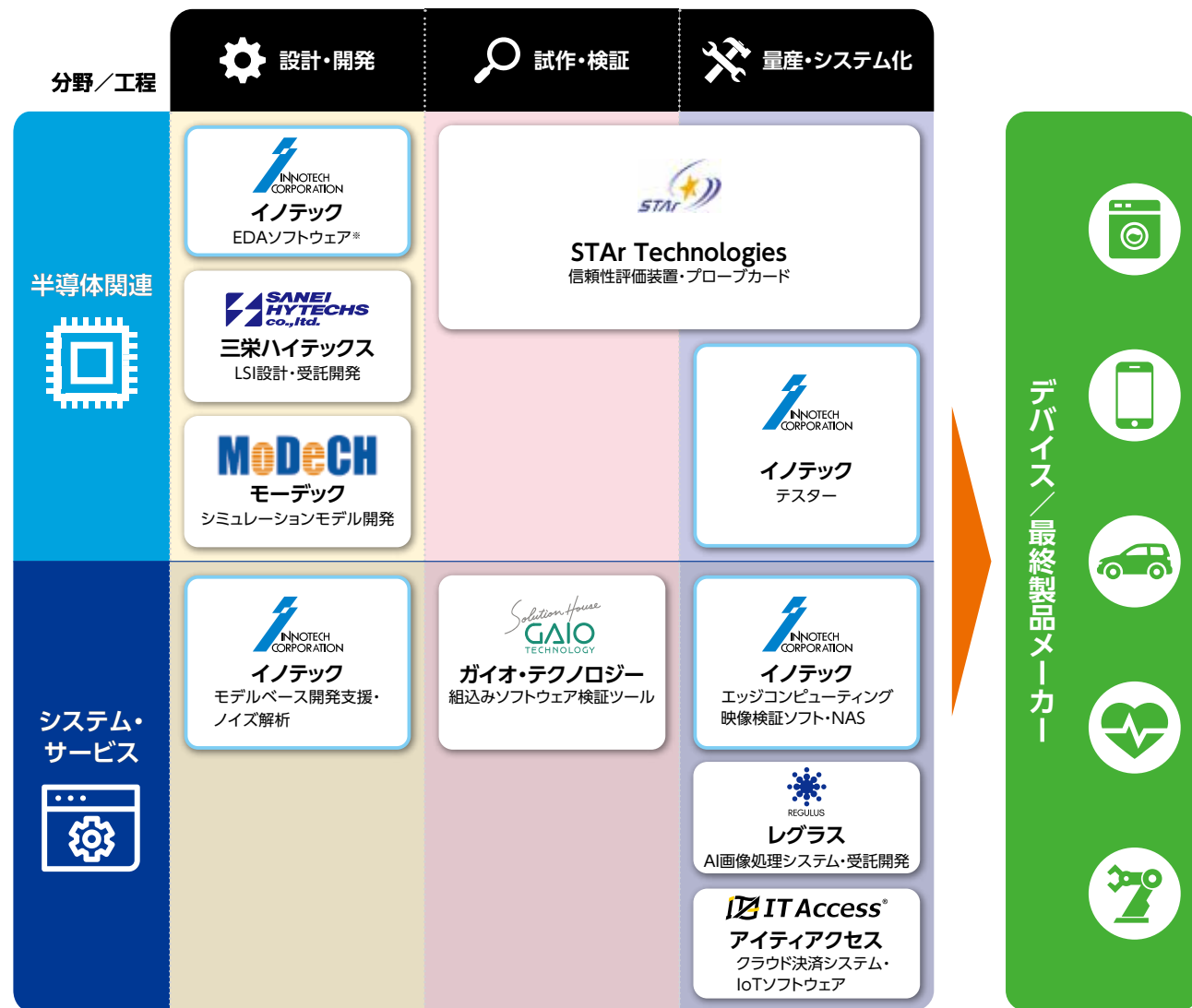
BUSINESS REPORT

2020年度 中間報告書 2020.4.1-2020.9.30



証券コード:9880

ハードウェア、ソフトウェア、コンサルティングサービスを提供する
総合プロバイダーとして、お客様の技術課題の解決に幅広く貢献します。



※ 半導体設計用ソフトウェア

環境変化に対応し、
中長期の成長への基盤を固めます。

当第2四半期の経営環境や業績について

2020年度(2021年3月期)第2四半期累計期間(以下第2四半期)における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により社会経済活動が大幅に制限され、景気が急速に悪化しました。政府による各種政策により一部に持ち直しの動きが見られるものの、感染再拡大の懸念や米中貿易摩擦の長期化による世界経済への影響など、依然として厳しい状況が続いています。

こうしたなか、イノテックグループの当第2四半期の業績は、自社製テスターやアイティアアクセスのクラウド決済システムの販売が堅調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により主にSTAR Technologiesのファウンドリー向けプローブカードや信頼性テストシステムが低迷しました。

これらの結果、売上高149億35百万円(前年同期比5.3%増)、営業利益4億56百万円(同26.3%減)、経常利益5億99百万円(同11.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益2億90百万円(同31.9%減)となりました。

▶ イノテックが目指すもの

- ▶ エレクトロニクス・ビジネスを通じて、人々の生活を豊かで快適なものにし、「未来社会に貢献」する
- ▶ 創造力を駆使、携わるエレクトロニクス業界の技術の進歩に寄与し、「不可欠な存在」になる
- ▶ 我々の真の事業は「問題を解決すること」であり、顧客に満足いただく労苦を惜しまない
- ▶ 先端技術に挑戦し続ける「パイオニア」になる
- ▶ 創造力を発揮できる会社の仕組みづくりに心血を注ぐ、「誇りの持てる」会社を実現する



代表取締役社長
小野 敏彦

通期の業績見込みや今後の戦略について

通期の業績については、期初に発表した予想を据え置き、売上高320億円(前期比2.7%増)、営業利益16億50百万円(同1.2%減)、経常利益18億円(同5.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益11億円(同5.9%減)を計画しています。

国内のテスター市場については、今後も需要の伸びが一定の状態が続くと考えています。一方で自動車産業は、新型コロナウイルス感染症の影響により下期も停滞が予想されます。コロナ禍の先行き不透明な環境が続きますが、リスクに適切に対応しながら、中長期の成長に向けた施策を着実に進めてまいります。株主の皆様には引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

▶ 配当金のご案内

中間配当につきましては、今後の事業展開などを総合的に勘案し、2020年11月9日開催の取締役会で決議いたしました。

- 1.配当金.....1株につき**20円**
- 2.効力発生日(支払開始日).....**2020年12月9日**

IoT 社会の実現を支える 組み込みシステム

幅広い機器の制御を担う「組み込みシステム」は、IoT化の進展に伴い、今後さらなる需要の高まりが期待されています。
組み込みシステム事業の施策について本部長の菅が解説します。

インテリジェントシステム
ソリューション本部
本部長
菅 彰吾



Q イノテックの組み込みシステム事業について教えてください。

A 自動券売機や自動販売機など、皆様が目にする機器を 制御するためのシステムを提供しています。

イノテックは、商社時代より培ってきたエンジニアリング力を活かし、2002年に組み込みシステムの開発を開始しました。現在は駅の自動券売機や飲料などの自動販売機、高速道路の料金自動支払システム、通信会社基地局の監視システムなど、日常生活で利用されるさまざまな機器に当社の組み込みシステムが導入されています。今年話題になった機器でいうと、新型コロナウイルス感染症のPCR検査機にも当社の製品を採用いただいています。

当社の強みは、24時間365日、また長期間にわたって稼動する機器にも対応できる品質の高さです。有寿命部品の排除による長寿命化や信頼性評価試験の強化に取り組んでいます。また自社開発・国内製造にこだわっており、部材調達や不具合発生時の解析も迅速に対応できます。このような点が評価され、交通・通信などのインフラや医療機器など、高い信頼性が求められる分野で実績を拡大しています。

イノテックの製品は
さまざまな機器に
使用されています。



自動券売機



自動販売機



基地局監視



PCR検査機

Q 組み込みシステム市場の今後の展望を教えてください。

A 産業機器のIoT化の進展を踏まえ、 「エッジコンピューティング分野」の成長が見込まれます。

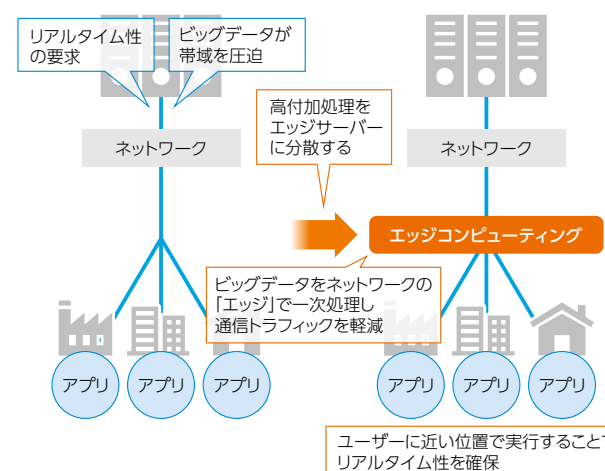
さまざまな機器がネットワークにつながるIoT化が進み、取り扱うデータ量が大幅に増加するなかで注目されているのが「エッジコンピューティング」です。

エッジコンピューティングは、現場の機器から得た大量のデータを機器の近く（エッジ）で処理する技法です。物理的に近い場所で処理するため、クラウドと比べ遅延時間が少なく、よりリアルタイムで判断が可能です。またデータを整理、加工し、必要なデータのみをクラウドに送ることで、通信量の軽減やセキュリティリスクの低減も

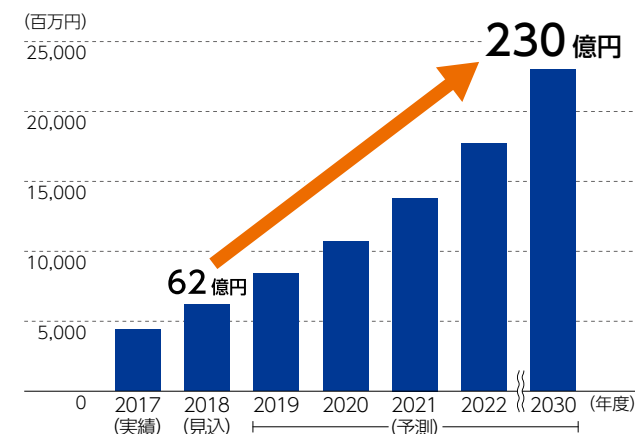
実現できます。近年、データ量の多い画像認識技術の活用が進み、よりエッジでの処理が求められていることもあり、エッジコンピューティングの市場規模は2030年には現在の倍以上、230億円まで伸びるとの予測もあります。

エッジコンピューティングの導入のため、組み込みシステムも一層複雑なシステムの開発が必要となります。当社の強みであるエンジニアリング力を活かせる分野において、お客様のニーズに対応する高度な製品を提案していきます。

エッジコンピューティングのイメージ



エッジコンピューティングの市場規模予測



※富士キメラ総研提供「2019人工知能ビジネス総調査」(エッジサーバー)より引用

Q イノテックの事業戦略は?

A SDGsを起点に、お客様の「一歩先」のニーズを捉えたサービス展開を考えています。

社会インフラや医療、産業機器といった従来の得意分野だけでなく、中長期の市場拡大が見込める新しい分野の開拓を進めていきます。その際、カギになると考えているのが「SDGs(持続可能な開発目標)」です。

SDGsでは、持続可能でよりよい社会の実現のために、テクノロジーを使った社会課題の解決が求められています。IoT、エッジコンピューティングの活用が期待できるものも多く、今後、多数の企業がこの分野に目を向けると思っています。その際、テクノロジーがどのように活用され、それに当社はどう貢献できるかを検討することで、お客様の

一歩先のニーズをとらえ、ビジネスを展開することができると考えました。例えば、SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に対しては、建設機器の自動化、自律化を通じて、熟練技能者の高齢化による人手不足の解消や、作業の効率化などに貢献できると期待しています。

今まで繋がっていなかったものが繋がり、新しいサービスが生み出されています。当社としても、従来の組込みシステムの提供にとどまらず、新たなアプリケーションの共同開発なども含めて、柔軟に取り組んでいきたいと考えています。

たとえば建設機械の自律・自動運転化を通じ社会課題の解決に対応します。



産業と技術革新の基盤をつくろう

市場における社会課題

- ・熟練技能者の高齢化
- ・建設作業員不足
- ・労災件数が高水準
- ・作業開始までの待機時間がある

イノテックの製品で課題解決に貢献

1. 自律運転制御用ボードPC
▶ **自律運転を実現**
2. 複数機械の状態監視用BOX PC
▶ **必要最小限の人員で多数の機械を運転可能に**
3. 画像認識用エッジPC
▶ **熟練オペレーターのデータを収集・分析し、高度な自動運転を実現**



1 STAr Technologiesが化合物半導体向け信頼性評価システムメーカー Accel-RFを子会社化



STAr Technologiesは、2020年2月に米国カリフォルニア州に拠点を置くAccel-RF Instruments Corporation(以下Accel-RF)を子会社化しました。Accel-RFは、2003年に設立された化合物半導体の信頼性評価システムを提供する世界的なリーディングカンパニーです。高周波(RF)やパワー半導体の信頼性評価システムに豊富な知識と経験を有しています。

化合物半導体は、シリコンよりも電子の移動速度が速いため、高速信号処理に優れています。また、低電圧で動作する、光に反応する、マイクロ波を出すなどの優れた特性を備えて

おり、航空宇宙防衛、データ通信、電力供給、自動車などの分野で利用が期待されています。

今後は、両社の技術を融合させて信頼性評価システムの製品ラインナップを強化していくとともに、欧米・アジア双方の市場へ展開していきます。



2 モデルベースシミュレーションのリーディングカンパニー モーデックを子会社化



イノテックは、2020年4月に株式会社モーデックを子会社化しました。

モーデックは、パワーエレクトロニクス、アナログ(RF/ミリ波)、高速デジタルなどの分野において、測定、評価、解析、モデリング、シミュレーション、回路設計、回路検証、ノイズ対策に関する課題解決支援サービスを提供しています。特にアナログモデリングでは世界でも有数の技術を有しており、最先端のデバイスモデリング技術を基軸に、高精

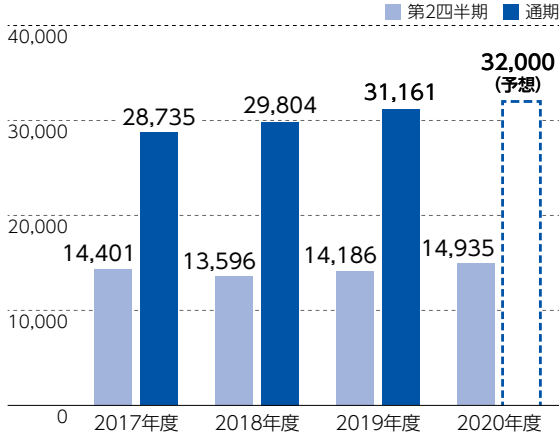
度なデバイスモデルやモデリングのためのツールを開発販売しています。

イノテックは、EDAソフトウェアをはじめ、ノイズ解析、モデルベース開発のコンサルティングサービスを提供しているため、両社の持つ強みを融合し、技術力の強化、幅広い分野への応用を行うことで、高付加価値な独自サービスや製品を提供できると考えています。

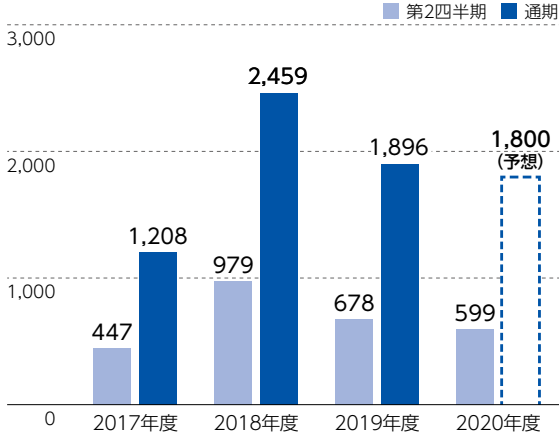
売上高 **149.3**億円 (前年同期比5.3%増)

経常利益 **5.9**億円 (前年同期比11.7%減)

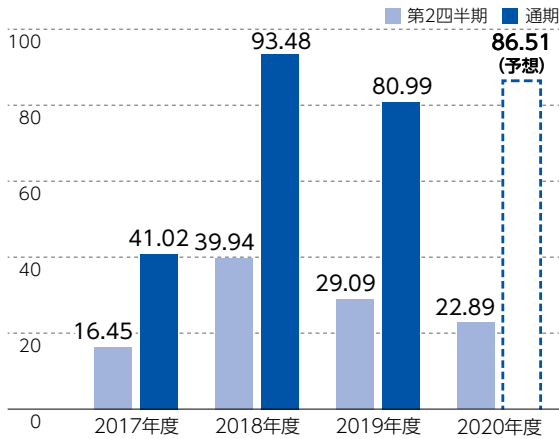
売上高 (単位:百万円)



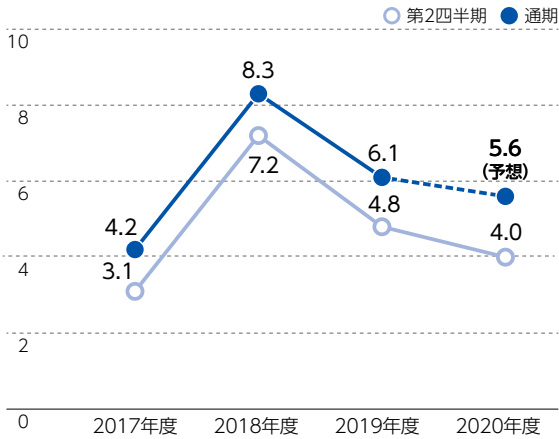
経常利益 (単位:百万円)



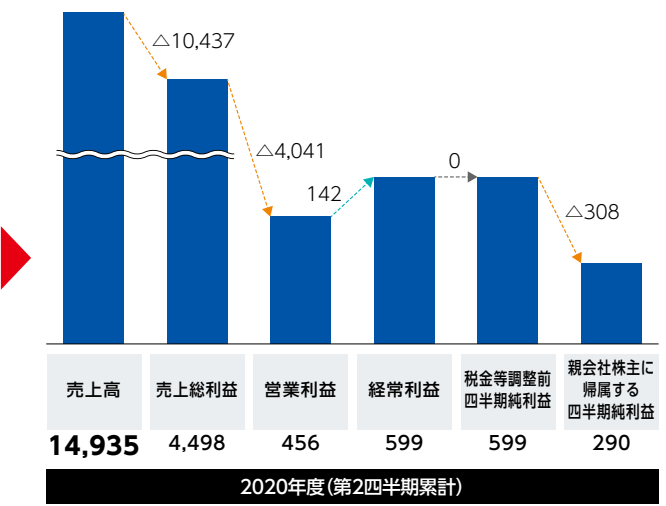
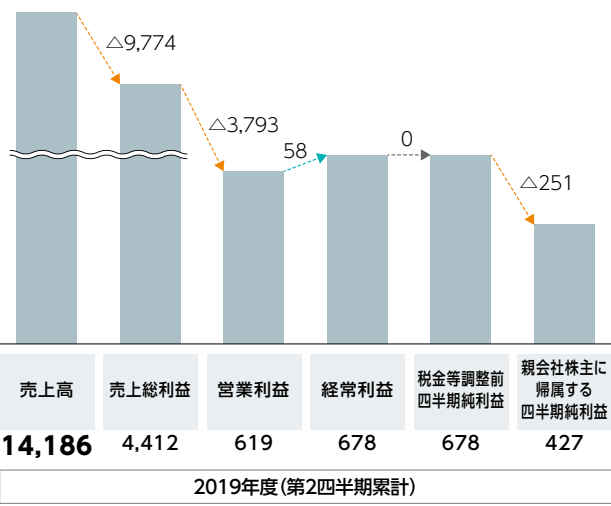
1株当たり当期純利益 (単位:円)



売上高経常利益率 (単位:%)



◆ 四半期連結損益計算書 (単位:百万円)



(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 2019年4月1日～ 2019年9月30日	当第2四半期累計 2020年4月1日～ 2020年9月30日
売上高	14,186	14,935
売上原価	9,774	10,437
売上総利益	4,412	4,498
販売費及び一般管理費	3,793	4,041
営業利益	619	456
営業外収益	273	379
営業外費用	214	237
経常利益	678	599
特別利益	0*	—
税金等調整前四半期純利益	678	599
四半期純利益	463	286
非支配株主に帰属する 四半期純利益又は四半期純損失	35	△4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	427	290

※ 168千円のため百万円未満を切り捨てて0と表示しております。

① 連結損益計算書のポイント

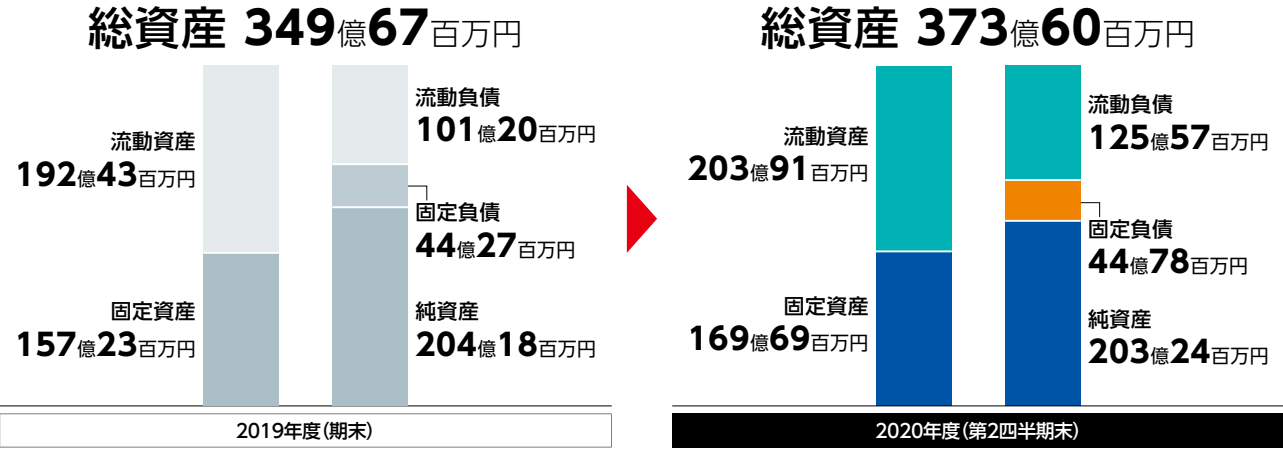
当第2四半期連結累計期間の業績は、メモリー向けテストの需要改善やクラウド決済システムの販売が堅調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により信頼性テストシステムや自動車向け検証サービスが低迷した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億90百万円となりました。主な事業の概況は、次のとおりです。

- テスター事業は、国内需要が改善したことにより大幅増収。
- EDAソフトウェア事業は、既存顧客からの受注増のほか、基板設計用ソフトウェアの販売も堅調に推移したことにより増収。
- 組込みシステム事業は、医療向けや防衛向けが堅調だったものの、FAやセキュリティ関連の需要減により減収。
- ガイオ・テクノロジーは、新型コロナウイルス感染症の影響による自動車向け検証サービスの需要減により減収。
- STAr Technologiesは、新型コロナウイルス感染症の影響による主要部品の供給難やファウンドリーの需要減により、信頼性テストシステムの販売が低迷し減収。
- アイティアアクセスは、ライセンス販売が伸長したことに加え、決済システムの販売が大幅に増加したことにより増収。
- レグラスは、自社製AIカメラシステムの量産販売や画像処理関連の受託開発が低迷し減収。
- 三栄ハイテックスは、LSI設計受託ビジネスで国内主力顧客の需要低迷が続いたものの、海外事業の好調により増収。

連結財務諸表(要旨)

◆ 連結貸借対照表

(2020年9月30日現在)



① 総資産のポイント

当第2四半期末の総資産は、373億60百万円となり、前期末に比べ23億93百万円増加いたしました。これは主に、のれんや商品及び製品、仕掛品が増加したことなどによるものです。

① 負債のポイント

当第2四半期末の負債は、170億35百万円となり、前期末に比べ24億87百万円増加いたしました。これは主に、前受金や短期借入金が増加したことなどによるものです。

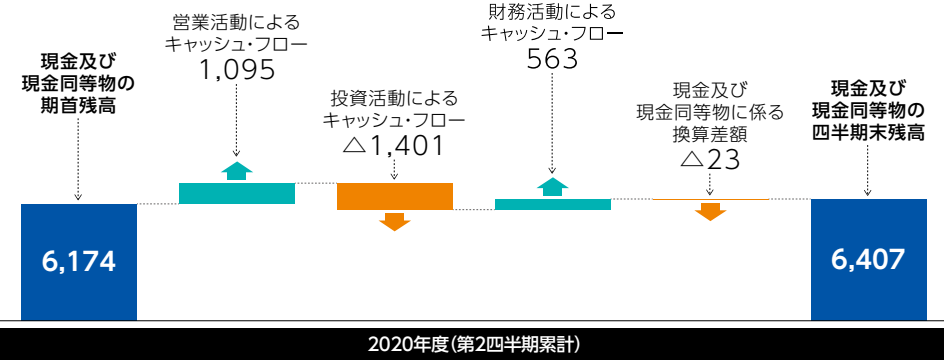
① 純資産のポイント

当第2四半期末の純資産は、203億24百万円となり、前期末に比べ94百万円減少いたしました。これは主に、利益剰余金が増加したものの、為替換算調整勘定や非支配株主持分が減少したことなどによるものです。
この結果、自己資本比率は51.9%となり、前期末に比べ3.6ポイント減少いたしました。

◆ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

(2020年4月1日～2020年9月30日)



① 連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、64億7百万円となり、当期首残高に比べて2億33百万円増加いたしました。これは、投資活動によって14億1百万円を使用したものの、営業活動によって10億95百万円、財務活動によって5億63百万円をそれぞれ得たためであります。

株式の状況 (2020年9月30日現在)

◆ 株式の状況

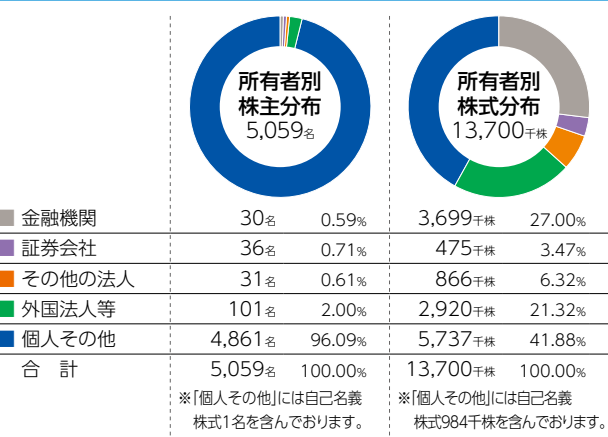
発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	13,700,000株
株主数	5,059名

◆ 大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本投資株式会社	788	6.20
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	713	5.61
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	483	3.80
CADENCE TECHNOLOGY LIMITED	456	3.59
株式会社みずほ銀行	420	3.30
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	401	3.16
株式会社三井住友銀行	320	2.52
第一生命保険株式会社	280	2.20
株式会社北陸銀行	265	2.09
イノテック社員持株会	258	2.03

持株比率は自己株式984千株を控除して計算しております。

◆ 所有者別株主分布・所有者別株式分布



※本報告書の記載金額および数量は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。また、比率は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

会社概要 (2020年9月30日現在)

◆ 会社概要

商号	イノテック株式会社 INNOTECH CORPORATION
設立	1987年1月5日
資本金	105億17百万円
従業員数	連結 1,512人 個別 201人
所在地	本社/物流センター 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号 大阪支社 大阪市中央区南本町二丁目6番12号 サンマリオンNBFタワー16階
主なグループ企業	三栄ハイテックス株式会社 ガイオ・テクノロジー株式会社 アイティアアクセス株式会社 株式会社レグラス 株式会社モーデック STAr Technologies, Inc. INNOTECH FRONTIER, Inc.
主な取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三井住友銀行 株式会社北陸銀行 三井住友信託銀行株式会社 株式会社横浜銀行 株式会社三菱UFJ銀行

◆ 役員

(2020年9月30日現在)

取締役会長	澄田 誠	取締役	安生 一郎
代表取締役社長	小野 敏彦	取締役	坂 篤郎
代表取締役専務	大塚 信行	常勤監査役	加藤 功
取締役	鐺木 祥介	常勤監査役	中越 健介
取締役	高橋 尚	監査役	田中 伸男
取締役	棚橋 祥紀	監査役	栗崎 由子
取締役	劉 俊良		

※1 安生一郎および坂篤郎は、社外取締役であります。
※2 加藤功、田中伸男および栗崎由子は、社外監査役であります。
※3 安生一郎、坂篤郎、加藤功、田中伸男および栗崎由子は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

◆株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日
	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して 定めた日
単元株式数	100株
【株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について】	
証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。 証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の電話照会先までご連絡ください。	
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031
インターネット ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/agency/ index.html
【特別口座について】	
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会およびご住所変更などのお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。	
公告方法	当社のホームページに掲載する。ただし当社ホームページにて公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。 https://www.innotech.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部

IRサイトのご案内

<https://www.innotech.co.jp/ir/>

イノテックは、株主の皆様とのコミュニケーションの一環として、IRサイトを開設しています。このサイトでは、業績・財務データや経営ビジョン・方針などを報告するとともに、「個人投資家の皆様へ」と題したコーナーを設け、当社のビジネスを分かりやすく説明しています。ぜひ、アクセスいただくとともに、ご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸いです。



本社：〒222-8580 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号
Tel: 045-474-9000 (代) Fax: 045-474-9089
<https://www.innotech.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています

